

伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：奈良女子大学（総括責任者：今岡 春樹）

プロジェクトの概要

(1) 新規養成女性研究者の採用計画（平成 22 年度～26 年度）。() 内は女性教員採用比率

理学系：4(80.0%)，1(100%)，0(0%)，2(66.7%)，0(0%)

工学系：1(100%)，0(0%)，1(100%)，0(0%)，0(0%)

本学は農学系に比べ理工系の女性研究者比率が低い。本申請では比率の低い理学系と工学系に関して重点的に採用を計画した。極めて高い採用比率をポジティブアクションで実施することにより、加速的に女性教員比率を高め、理工農系で3年度目には27.5%、5年度目には28.4%という高い女性教員比率を達成する。

(2) 女性研究者養成のための取組内容 採用した新規養成・独自養成女性研究者、既在籍女性研究者に対し、1)若手研究者サポートシステム、2)若手女性研究者養成システム、3)研究スキルアップシステムを適用し、メンター制度などにより教員の協力体制のもとに女性研究者を養成する。

(3) 期待される効果 本申請課題の推進により、本学の理工系女性教員比率が加速的に伸び、20%以上を安定的に維持できるようになり、全学の比率も30%を超える。また3つの支援システムにより次世代を含めた女性研究者の増加と研究の質の向上が大いに期待できる。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	女性研究者支援システム改革	取組の内容	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

部局ごとに定年退職者及び転出者の補充人事を用いた女性教員採用計画を策定し、女性限定公募を実施することにより新規養成女性研究者を所期の計画通り採用し、理・工・農学系の女性教員比率を大幅に引き上げたことは評価できる。さらに、学長裁量プロモーション制度の活用により、優れた女性教員の昇任を大きく進めるシステム改革を実現したことは評価できる。

- ・ **目標達成度**：新規養成女性研究者の採用は所期の目標を達成した。また、女性教員比率についても、高い目標を概ね達成しており評価できる。
- ・ **女性研究者支援システム改革**：学長主導の下、定年退職者及び転出者の補充人事を用いた女性教員の積極的な採用、優れた女性教員の上位職階への昇任を効率的に進め、確実な成果を上げるによりシステム改革に繋がったことは評価できる。

- **取組の内容**：教員の選考に当たり、女性教員を選考委員に入れるなどの工夫が見られた。また、メンターチーム体制の構築及びメンターチームの活動を評価する評価体制の構築、研究スキルアップ支援の実施等、女性教員養成の取組が成果を上げており評価できる。さらに、関西の5女子大学連携に係る取組を先導しており評価できる。
- **実施体制**：学長主導のマネジメントによる全学的な実施体制を構築しており評価できる。特に、本事業推進本部に理学系の理事・副学長や理学部長が参画したことから、学長主導の下、計画を効率よく実施できたことは評価できる。
- **今後の進め方**：本プログラム終了後の5年間の第2フェーズと捉え、理・工・農学系分野の女性教員採用比率を50%とする高い目標を設定し、学長のリーダーシップの下、目標達成に向けた取組が開始されていることは評価できる。他の女子大学との連携を強化しており、今後は女子大学の先導的モデルとして高い波及効果を及ぼすことを期待する。